

# チャペル週報

No.18

2023.10.16～10.20

秋季宗教運動特集号

神を畏れる生き方が  
あなたの頼みではなかったのか。  
完全な道を歩むことが  
あなたの希望ではなかったのか。  
ヨブ記 4章6節



Central Garden (神戸三田キャンパス)

関西学院宗教センター



## チャペル・スケジュール

時間：西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30～11:00 神戸三田キャンパス 10:40～11:10  
場所：各学部チャペル（ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂）

10月16日（月） **神** 前川 裕（理学部宗教主事）  
**経** 秋季大学キリスト教週間を覚えて① 李 相勲（宣教師、経済学部准教授）  
**人** New Directions（関西学院グリークラブ アカペラカルテット）  
**建** Timothy Benedict（宣教師、社会学部准教授）  
**聖** 手良村クラス ダッドレーチャペル

10月17日（火） **神** 「私の大切な場所」⑦ 森本 典子（神学部専任講師）  
**文** Andreas Rusterholz（宗教主事）  
**社** 人間らしさとは⑧ 清水 裕士（社会学部教授）  
**法** 讃美歌を歌おう 大宮 有博（宗教主事）  
**経** 秋季大学キリスト教週間を迎えて② 舟木 讓（宗教主事）  
**商** 柿原 武史（商学部教授）  
**国** 宮田 由紀夫（国際学部長）  
**理・工・生環** 本竜 晋（日本キリスト教団 相生教会牧師）  
**総** 小西 尚実（総合政策学部教授）  
**教** 実習をふりかえって 木山 莉沙（教育学部4年）

10月18日（水） **神** 「私の大切な場所」⑧ 柳澤 田実（神学部准教授）  
**社** 人間らしさとは⑨ 橋本 祐樹（神学部准教授）  
**法** Christian M. Hermansen（宣教師、法学部教授）  
**商** 福島 旭（中学部宗教主事）  
**人** 音楽チャペル（関西学院聖歌隊）  
**国** 井上 智（宗教センター宗教主事、神学部助教）  
**理・工・生環** 前川 裕（宗教主事）  
**教** 佐藤 真（教育学部教授）

10月19日（木）大学合同チャペル「希望を抱いて」  
西宮上ヶ原キャンパス(10:20-11:10) 会場：中央講堂  
「美の香り」 Roger W. Lowther（コミュニティーアーツ東京 ディレクター）  
神戸三田キャンパス(10:30-11:20) 会場：VI号館101教室  
「希望は失望に終わらない」岸本 光子（大阪暁明館病院伝道所牧師）  
西宮聖和キャンパス(10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「悲しみの中の喜び」佐藤 成美（日本キリスト教団 神戸栄光教会牧師）

10月20日（金）大学合同チャペル「希望を抱いて」  
西宮上ヶ原キャンパス(10:20-11:10) 会場：中央講堂  
「夜道の歩き方」大仁田 拓朗（日本キリスト教団 甲子園教会牧師）  
神戸三田キャンパス(10:30-11:20) 会場：VI号館101教室  
「美の香り」 Roger W. Lowther（コミュニティーアーツ東京 ディレクター）  
西宮聖和キャンパス(10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「希望は失望に終わらない」岸本 光子（大阪暁明館病院伝道所牧師）

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10～8:30 ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原）  
10月20日（金）経営戦略研究科のために 玉田 俊平太（経営戦略研究科長）  
Zoomでご参加希望の方は、宗教センター（shukyocenter@kwansei.ac.jp）へメールでお知らせください

## 「美の香り」

Roger W. Lowther

私たちの人生で美と芸術が果たす役割とは何でしょうか。壁に飾る絵画、部屋に流す音楽、庭を埋め尽くす花としてのみ価値があるのでしょうか。いや、それ以上の役割があるのでしょうか。私はこれについて長年考えてきました。しかし、2011年に起こったあの恐ろしい東日本大震災の直後に私の考え方は一変しました。震災後の6ヶ月間、私は複数のアーティストと共に東北の避難所や公民館などで被災者のために演奏活動を行いました。体育館に集まった沢山の被災者は、家族、友人、住居、仕事など、すべてを失った人たちでした。この時に出会った人々によって深く心を動かされました。そして、どんな暗闇の中でも、美の力が人々に希望と励ましをもたらすことができるということに圧倒されたのです。

このチャペルアワーのひと時、ピアノを通して、この経験から学んだことを皆さんと分かち合いたいと思います。音楽は、私たちが人生の失意の中にあってもそこからの回復を求め、絶望的に見える状況の中でも新たな希望を求めていることに気づかせてくれます。バッハ、ショパン、そして自作の曲の演奏を通して、その音楽の力について共に味わいたいと思います。すべてのことは最終的にうまくいき、絶望はいつか希望を生み出し、闇は光に照らされ、壊れた世界は新しくされるという確信を、私たちは音楽から得ることができるのです。音楽は私たちに天国を垣間見させ、そこには神が創造された本来の世界が待っています。

音楽には、私が思っていたよりもはるかに深い意味と目的があります。その意味と目的を一緒に発見しましょう。

(コミュニティーアーツ東京 ディレクター)

## 「希望は失望に終わらない」

岸本 光子

聖書に「この希望は失望に終わることはありません。」(ローマの信徒への手紙 5:5) という一節があります。この言葉から、マモルさん(仮名)と神との出会いを紹介したいと思います。

マモルさんは、地方の刑務所から病院の機能を持つ医療刑務所に移送され、ガンの手術と治療を受けていました。その療養中に、マモルさんの申し出によりキリスト教教誨師である私とマモルさんとの教誨が始まりました。教誨とは刑務所等の矯正施設において被収容者の更生のために宗教者が奉仕する活動です。

教誨が始まると、マモルさんは自分の生い立ちを語ってくださいました。少年時代から母親との折り合いが悪く、家に居場所がなかったマモルさんは、地元の暴力団に入って何かの事件で逮捕されます。そして、服役中にガンに罹り、医療刑務所で手術を受けたのでした。病状から見て、釈放日まで余命がないマモルさんにとって、刑務所で過ごす時間はまさに死を待つ時間でした。しかし、聖書はそんなマモルさんに、死んで終わりにならない「いのち」があると迫ります。マモルさんを救うために神は自分のひとり息子を身代わりとして十字架につけた、と言うのです。一度きりの人生を後悔と絶望の中で、孤独に終えようとしていたマモルさんは、心を開き、神の圧倒的な愛に触れ、涙を流してこの救いを頂きたいと願いました。マモルさんは自分の罪を告白し、赦しと救いを願ってクリスマスに洗礼を受け、神の子とされました。

2月の教誨のときは更に病状が進み、マモルさんは意識が朦朧として荒い息でベッドに横たわっておられました。私はマモルさんの手を握り「何も怖いことはありません。天国の門の前で『お前は誰だ』と聞かれたら『イエスの名によって洗礼を受けた者だ』と答えてください。必ず天の門は開きます。」と伝えました。

その翌日、マモルさんは天に召されました。皆が恐れる服役中の死でしたが、マモルさんは神に赦され愛された「神の子」として生涯を終え、希望を抱いて神の国へと帰ったのです。

神は生きて働き、私たちの失敗や後悔、絶望をも共に担ってくださいます。どうしようもない現実を打ち破って、愛と赦しをくださいます。

あなたも、裏切られることのない希望をどうか受け取ってください。

(大阪暁明館病院伝道所牧師)

## 「悲しみの中の喜び」

佐藤 成美

新しい教会に牧師が赴任した時に「難しい」と思うことのひとつに、葬儀の説教があります。なぜならばその教会の人たちのことを、牧師はまだ何も知らないからです。

そんな時に、ただひとつの助けとなるのが、故人の選んだ「愛唱聖句」です。その方が好きだった聖書の言葉を読んでいると、その人の人となりが分かってくるような思いにさせられるからです。

ある時そんな思いを持って、転任間もない教会で葬儀を行ったことがあります。

亡くなられた方は随分しっかりした信仰をお持ちだった方で、ご自分の死が間近であることを知って、すべては神様の御計画の内であり、万事は益となる、そのような愛唱聖句を選んでおられました。

ですからわたしもその言葉に基づいて、人の生と死はすべて神様の御手の内にあり、たとえそれがわたしたち人間には納得できないものであったとしても、神様のお許しのもとに人は生まれ、死んで行くのだ、そういうお話をしたのです。

しかし葬儀が終わってから、わたしはその自分の話が空を打つようなものであったことを直感しました。なぜならば故人のお連れ合いは、わたしの想像以上に、愛する者の死に深い悲しみを覚えておられたからです。わたしは、その方の悲しみに寄り添う説教が出来なかったことを後悔し、申し訳ない気持ちで一杯になりました。

使徒パウロは、十字架の言葉は滅んでいく者には愚かだ、と語りました。なぜ愚かなのか、それはこの世の価値観から言えば、十字架のイエス・キリストが役に立たない、弱いものに過ぎないからです。

しかしパウロは、その十字架のキリストの弱さこそが、神の力だと言いたいのです。十字架のキリストは、その弱さによって、わたしたち人間の弱さや悲しみに寄り添われる、そしてそのわたしたちの弱さ、悲しさの中に「神の力」、つまり神にある希望を宿してくださる、というのです。

悲しみの中にある人に、牧師であるわたしが語るべきであった言葉、それは十字架の言葉であったのだ、そのことをわたしは、このパウロの言葉から深く知らされたのです。

(日本キリスト教団神戸栄光教会牧師)

## 「夜道の歩き方」

大仁田 拓朗

「地球の歩き方」というシリーズ本が売れなくなったというニュースを最近目にしました。本自体が売れない時代に、さらにコロナ禍で旅行が出来なくなり、せめてその気分だけでも味わいたい人が買うのかと思いましたが、取材自体も出来なくなっていたそうです。

初めてのところに、特に一人で行くのなら、この手のガイド本がある方が安心のよう思いますが、今どきは、スマホさえあれば十分なのかもしれません。

いや、そもそもそういう何かが必要なのでしょうか。

皆さんは何かを携えて、人生という道を歩まれているのでしょうか。

「コロナ禍の歩き方」とか、未体験の場所に踏み出していけないといけない時には、どのように歩めばよいのかわからない時があります。教えて欲しいと思うこともありますが、そこは誰もまだ歩んだことのない道で、誰もがどう歩んでいけばいいのかわからず、試行錯誤で、後から考えたら間違っていたと思わされることもあるかもしれません。そして失敗もまたよい経験だとするなら、むしろガイドなど必要とせずに、それぞれに迷いの中で一歩ずつ歩いていけばよいようにも思います。

そもそも誰かがよいと薦めるところが私にとってもよいかどうかはわからないのです。考えてみれば、初めてのところに行く時だけでなく、いつだって「その歩き方」がわかっているかは、疑問です。

「突然病気になった時の歩き方」、「人間関係で苦しい時の歩き方」も、「チャペルの説教で失敗した時の帰り道の歩き方」も私にはわかりませんし、「うまく行っている時の人生の歩き方」もそれが傲慢への落とし穴につながりかねないなら、ちゃんとその歩き方は考えた方がよいと思います。

イエスは、旅へと歩みだす弟子たちに「何も持っていくな」と言っています。聖書は私たちそれぞれの違う人生の中で、様々な出来事に遭遇した時の歩き方を教えてくれている本だと信じていますが、その人生の歩き方のヒントが「何も持っていくな」であるのです。たとえば夜道に行くのなら、今ならスマホ、昔ならともし火と、道を照らす明かりをもっていた方がよいと思うのですが、でも「何も持たないこと」が聖書では推奨されているのはどうしてだと思えますか。チャペルで一緒に考えましょう。

(日本キリスト教団甲子園教会牧師)

### ●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

院長室からのビデオメッセージ「風に思う」を配信しています。毎回、聖書の言葉を取り上げ、それが今を生きる私たちに何を語るか、短くお話しします。キャンパスの美しい風景と合わせて、関西学院の中心となる精神に触れてください。(月2回程度更新されます)

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou>

「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ(HP)



### ●「天使にラブソングを (Sister Act 1)」映画上映会 (西宮上ヶ原キャンパス) のお知らせ

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館図書館ホールにて、映画上映会を開催します。参加ご希望の方は、記載のQRコードからお申込みください。(先着順90名) 小さなプレゼントも用意しています。奮ってご参加ください。

日 時：2023年10月20日(金) 17:00～19:00

場 所：図書館ホール(上ヶ原キャンパス図書館 地下1階)

参加費：無料(どなたでもどうぞお越しください)

主 催：宗教センター(宣教師企画)

協 力：宗教総部、聖書研究会“ポプラ”



### ●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の月1回、原則第2木曜日にチャペルアワーを開催します。場所は1405教室です。どなたでもご自由にご参加ください。

11月9日(木) 17:50～18:10 嶺重 淑(大学宗教主事)

12月13日(水) 17:50～18:20 クリスマス礼拝 打樋 啓史(宗教総主事)

### ●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第2・第4日曜日(原則)の午前10時から関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも(クリスチャンでなくとも)ご参加できますのでどうぞお越しください。

10月22日(日) 10:00～11:00

11月12日(日) 10:00～11:00

## ●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売（10/6より）のおしらせ

恒例の関西学院最大のクリスマスページェントを大阪のザ・シンフォニーホールで開催いたします。

参加費（入場料）は宗教活動委員会を通して関連団体に献金させていただきます。

日 時：2023年12月19日（火）17:30 開場 18:30 開始 21:00 終了予定

場 所：ザ・シンフォニーホール（大阪市北区大淀南2-3-3）

内 容：第一部・・・聖書朗読と音楽で綴る降誕物語とクリスマスメッセージ

第二部・・・学院の音楽団体とゲストによるクリスマスコンサート

参加費（入場料）：2,100円 当日座席指定（16:30より座席券と交換）

チケット販売（10/6販売開始）：

\* 関西学院大学生協（tel.0798-53-5150 NUC, KSC, NSCで販売）

\* チケットぴあ Pコード 253-010

<https://w.pia.jp/t/symphonyhall/>

\* ぴあ取扱いのコンビニエンスストア：ファミリーマート、セブン・イレブン

\* ザ・シンフォニーチケットセンター（ザ・シンフォニーホール内 06-6453-2333・火曜定休）

<https://www.symphonyhall.jp>

主 催：関西学院

共 催：関西学院後援会・関西学院同窓会

お問い合わせ：関西学院宗教センター（tel.0798-54-6018）

チケットぴあ



ザ・シンフォニー  
チケットセンター



### ◆CD・DVDライブラリー利用について

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

### ◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。

郵送先 〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

### ◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。